

これまでの活動

1. リバーサイド日本庭園造園募金開始（4月現在募金のみ130万円、仙台市補助金100万円）
2. 造園のためのメンバーがリバーサイドに滞在(3/1～)
3. 造園についてリバーサイド市当局と交渉（3/3、3/14、3/29）
4. 庭園の鋤入れ式挙（3/9）
5. 造園ボランティア第一団がリバーサイドに滞在（3/10～3/30）
6. 造園ボランティアツアーのリバーサイド訪問（4/12～16、その後メキシコ訪問）

SIRA WIND

国際交流協会の機関紙ですが、2006年春号に私たちの日本庭園の特集が載っています。市民センターなどでもらえます。

お願い

みなさまに御協力いただいたおかげで募金も大分集まりました。でも、予算に対してまだ50万円ほど不足です。困っているのはリバーサイド関連の団体の方々からの募金が少ないことです。そろそろこれまでの交流の意義を噛みしめて御協力をお願いしたいと思っております。その節は是非とも快い御協力をお願い致します。

リバーサイドでの経験



「鋤入れ式」に集まってくれた人々

ボランティア 次頁の写真のようにリバーサイドコミュニティカレッジの学生たちもボランティアに参加してくれ、楽しい交流ができましたが、予想に反して、募集手続きが厳しくて、人数は20人を越えることがなく、少々寂しいことでした。よかったのは、ボブさんという造園工事の専門家がボランティアとして参加してくれて、とても作業がはかどったことでした。



思いがけなかったこと カリフォルニアの州法で、人が立ち入れる場所には全て障害者も立ち入ることのできるような設備を施さねばならない、つまりとびいしの脇に車椅子の通れる通路をつけ、東屋には上ることの出来るスロープをつけなければならない、ということでした。設計者が受け入れることができず、ついに「人の立ち入らない場所」として造ることになりました。

次には木戸、東屋、そして藤棚に到るまで、6フィート以上の建造物には建築基準法をクリアできる構造計算が必要でした。必然的に出来上がったものは頑丈になるのですが、お金がかかります。

最後に、池をいくら掘っても石や岩が出てこないのには困りました。全て細かい土なのです。リバーサイドでは石や岩は建材として商品になっていました。来てくれたボランティアに自分の生活している場所から適当に石を持ってきてもらえばいい、と計画していたので、あてが外れてしまったのです。幸い、寄付して下さる方が出たこと、市が建てていた郊外の消防署の土地から出た岩が使えることをボランティアの方に教えてもらい、当局に掛け合って運んでもらうことになって解決できました。

宿舎は やはり悩みの種でした。問題は交通です。どこにいくにも車で行くほどの距離がある都市で、ボランティアの人たちの人数を車で送り迎えをする手配は大変なのです。それをとても親切にやってくれたリバーサイドの人たちの、御協力と心配りには本当に頭が下がります。アパートを借りるつもりでしたが、それがかなわなかったことがロングステイの資料として確かめることが出来ず、心残りです。

いろいろ大変なこともありましたが、日米両市の市民ボランティアが協力して、他にはない日本庭園をつくることになったこと、そしてほぼ完成間近まで持ってこれたこと、その過程で、歓迎パーティばかりでなく誕生日の人のためのパーティや自宅に呼んでのパーティを開いたりして暖かくもてなしてもらったり、殆ど毎日昼食を差し入れてくださったり、作業をしながら公園当局の職員やボランティアたちとの交流が生れたり、姉妹都市交流の50周年を祝うには、またとない良い交流になったことを御報告します。

重ねて 募金への御協力に深く感謝申し上げます。仙台市からの補助金 100 万円とあわせると 230 万円の資金が集められたことになるのですが、これまでの支出を考えると総額 280 万円は必要と思われます。あと 50 万円ということになります。

もうすこし足りませんので、重ねての御協力をお願いいたします。マスコミといいますが、この行事の宣伝としてはおもてにも書きました SIRA WIND、また「仙台リビング」の2月24日号、そして「東北21」という経済産業局の機関紙の3月号に、リバーサイド日本庭園のことを取り上げていただきました。募金活動に活用していただけたらと思います。

リバーサイド関連情報

5月14日（日）ハーフマラソンに4人の代表団が来られます。ダラスの選手団も一緒に恒例の歓迎関係行事を持ちますので、その関連の文書をどうふうします。どうぞ御協力を、よろしく申し上げます。